

国宝 「雪松図と能面 x 能の意匠」

三井記念美術館(日本橋) 23. 12. 08~24. 01. 27

円山応挙筆《国宝 雪松図屏風》 18世紀・江戸時代 和紙に印刷・金彩



画伯の江戸時代の代表作として唯一**国宝**に指定されている作品で、一面の雪中にきらめく光を照り返して屹立する松姿を、墨と金と白紙のみで感情豊に描き出している。右隻の直線的で力強い老松、左隻の曲線的で柔らかい若木を並べると、両隻の間の画面中央部に出現した余白が空間の広がりを感じさせる。

能面

能は役者が能面をかけて舞い謡ういわゆる仮面劇で、舞台上で能面の目や口が動くことはないが、観客は豊かな感情を受け取ることができる。

伝孫次郎作《重要文化財 孫次郎》14~15世紀・室町時代 左図

女面の白眉とされる名物画で、向かって左側の目尻・子鼻・口角がわずかに上がり、角度によって多様な表情を見せてくれる神秘的な表情が特徴である。

出目満照作 《重要文化財 景清(かげきよ)》16~17世紀・桃山時代 中図

源氏に敗れて流罪とされ盲目の身になった武将、「平景清」の晩年の姿を表したとされ、窪んだ目、削げた頬、両端の下がった角、頬に浮き上がる血管からは、落ちぶれた武将の無念さに加え怒りが感じられる。

能装束

能舞台を彩る能装束は様々な種類があり、組み合わせや着方により配役の性格を表わすが、華麗な唐織と縫箔を中心にして色彩や文様に着目している。

《紅地御簾葵檜扇模様唐織(べにじみすあおいひおうぎもようからおり)》

20世紀・明治~大正時代 右図

